

無作為のアンケートの自由欄に記載し採用されたようです。匿名で書きました。

新設時の丁寧な施工が維持管理を楽にする

☑ 匿名希望 (72、個人事業主)

個人事業主として現場の安全パトロールや土木工事の点検などを請け負っている。仕事で強く思うのは、品質確保の大切さだ。

建設工事は人力による施工が多く、工場で造られる工業製品と違って品質にバラツキが出やすい。そこで、一定の品質を保つために工事共通仕様書が作られている。

しかし例えば、コンクリートの打設で所定の強度試験を行っても

全体の品質を担保できないのが現実だ。なぜなら、あくまでテストピースを使っただけの試験でしかないからだ。

品質を担保するには、強度だけでなく打設時の温度管理や打ち込み高さ、締め固め時のバイブレーターの使用方法などが守られていることが必要だ。それを、テストピースの強度試験のみで合格とするのはいかがなものかと思う。

共通仕様書にある項目が一つひとつ正しく行えているかをチェックシートで確認する。そういったことも、全ての現場でやる必要があるのではないだろうか。

今、老朽化したインフラの維持管理や更新が課題となっている。新設時にきちんと丁寧に施工して建造物の品質を高めることが、将来の維持管理を楽にすることにつながるのではないかと思う。

120 | NIKKEI CONSTRUCTION | 2024.8

掲載前の手書き元ネタは以下のとおりです。

元ネタから1回の電話やりとりで焦点を絞りまとめられた。さすがプロですね。

建設工事は、人力施工が多く品質にバラツキがある。そのため、品質確保として共通仕様書等がある。しかし、所定「コンクリート強度試験」や「土の密度試験」を行ってもコンクリートや盛土全体の品質を担保できないリスクがある。共通仕様書は「しなければならぬ」集であり、人力施工のリスク回避のためである。良いものを作るために如何に管理するか、課題になる。

解決策は、与えられた工事を愚直に行うことである。人力施工は、計画的に施工しチェックして改善していくPDCAのプロセスが、唯一の品質確認方法である。例えば「施工計画書の機械頭表」と「施工方法の仕様」が合っていないことが多くある。これではPDCAを回せず品質にバラツキが出て将来の不具合箇所として顕在化する。国交省等では、総括的なプロセスシートはあるが、それを個々の施工まで掘り下げた管理が重要である。

私は個人事業で、安パト・ISOシテ構築・土木工事点検等を行っている。御誌は、重要な貴重な情報源であり基本事項や法改正を中心にしている。効率化の新技術等は基本も出揃っていないのを見守る余裕はない。今後も情報提供に期待します。

以上